

令和6年度 第2回寝屋川市環境保全審議会 会議録（要旨）

日 時 令和6年11月19日（火）10:00 から 12:00 まで

場 所 寝屋川市クリーンセンター 6階 多目的室

出 席 山本会長、鯉坂副会長、村瀬委員、上原委員、小坂田委員、
掛川委員、荻野委員、玉川委員、古川委員、丸山委員、
箭木委員、原口委員

1. はじめに

（事務局よりあいさつ）

2. 次第1 第3次寝屋川市環境基本計画進捗管理（令和5年度）について

（事務局より説明）

【会長】

事務局よりご説明いただきました内容などについて、意見交換、コメントなどを行いたいと思います。

【委員】

進捗管理シートについて、2点コメントと質問があります。

4.2 生活環境の工場・事業場に関する立入検査件数ですが、目標が60件に対し59件の実績であれば、ほぼ目標は達成されていると見なして進捗状況はCではなくAでよろしいのではないかと思います。このシートに記載されている内容により、法令に基づいて計画通り立入検査を行って指導されているということを理解しましたので、今後も問題なく立入検査を続けていただきたいと思います。ただし、目標達成のための指標として立入検査件数を上げることが良いのかどうかについては再考が必要だと思います。生活環境を良くするという目標達成のための目標指数として考えるならば、環境基準を満たしているかどうかを見るというのがよろしいのではないかと思います。また、シートの「実績・効果」の欄に大気・水質汚染などの監視の結果をHPで公表したと書かれていま

すが、事業の効果を示すためには、公表した結果がどうだったかという、環境測定値に対する評価も、シートに記載しておくべき情報だと考えます。

もう一つは、4.5 シートの、環境フェアの参加者数というところですけども、令和5年度の実績は1,254人と書かれています。令和4年度と比べて令和5年度が下がったのは、どのような要因で下がったのでしょうか。以上です。

【事務局】

シートの4.2のご意見につきまして、まず進捗状況は基準年度の60件に対して1つ少ない59件というところで、これは客観的に事実として基準を下回ることによってC評価とさせていただいたところです。また、ご指摘いただいたように、そもそも工場の立入検査件数が指標としていかなものかというところにつきましては、来年度が中間年度ですので、また指標の見直しなども含めまして議論をしていきたいという風に思います。大気などの測定結果を指標とするというのも手法の一つという風には、現在考えております。またご意見を踏まえて検討させていただきたいと思います。

環境フェアの参加者数が大幅に下がっている要因といたしまして、令和5年度は天候が良くなかったことが影響していると思っております。例年フリーマーケットをさせてもらっていますが、雨が降った影響で出店される方が大幅に減ってしまいましたので、それが大きく影響しているといったところでございます。

【委員】

今年は参加者数が増えたということでよろしいでしょうか。

【事務局】

若干増えましたが、今年も雨が降ってしまいまして、客足には結構響いてしまったかなというところです。

【委員】

シートの書き方に関して、参加人数が指標になっているのでやむを得ないのですが、事業効果でいくつか行った取り組みがAになっているにも関わらず、参加者数が大幅に減ってしまったため進捗状況としてはCになってしまっている点が気になりました。進捗状況や事業効果をA、B、Cといった分かりやすい評価にしたために、細かく見ていくと疑問に思う点が生じているという感想を持ちました。

【会長】

確かに、例えば事業効果は全部Aになっているけども、進捗状況はCになっているようなところは、事業は一生懸命やって成功しているが、進捗状況の指標には結びついていないような形に見えてしまっています。そういう場合は、指標がちょっとおかしいかもしれないけど、先ほどの公害指標みたいなデータを見たほうがいいのではないかとか、参加者数にすべきかどうかなど、再考が必要かもしれません。

また、実際その事業そのものはうまく行っているけれども、もっと違う、その指標に響くような事業を入れるべきなのかというところを見るとということも重要だと思っていただければと思います。

【委員】

この概要版がビジュアル的で非常にわかりやすく、良いと思います。現在進捗のどの辺りにいるのか、進捗状況が低くても右肩上がりなのか、下がるべきものが下がっているのか、視覚的に分かりやすく纏められていると思いました。うまくいっていない部分については、ちょっと大丈夫かなと調べて読み込んでいけるように詳細版があるので、そこもうまく作られていると思います。この詳細版の方に入っていくと、通知表のように、A、B、Cというのがあって、この指標がぱっと目に入りますよね。それで、なんでBなのか、Cなのか、下を見ていくという流れが非常にわかりやすいというのをすごく感じました。

生物多様性と自然環境の項目を見ますと、今後、この目標を達成するために、下の事業をこれからうまく変更、もしくは努力していくという流れで見ると、1番下のところにすごくそのヒントになるような地域計画策定事業というのがあるかと思います。実績効果を見ますと、農業をされている地域ごとに聞き取った上で、課題や問題点を把握することができ、なぜ農地が減っているのかということについて、現場に行ってちゃんと確認して、その問題点を明らかにしましたとあります。次の課題は、この明らかになった問題点を、上の1番、2番、3番の色々な補助制度で補っていけるのかという点です。そこで、私からお聞きしたいのは、この明らかになった課題は、これらの補助制度で補っていけるようなものなのか、それともちょっと補うことが難しく、もう少し何かをしないといけないのか、どうでしょうか。というのも、私の職場が木屋地区にあるのですが、今年度、非常に大きな面積の農地が資材置き場などに変わるそうで工事が進んでいますし、かなり大きな物流センターが農地のところにできるというような話も聞いています。そういう状態がどんどん続いていくと、本当にこの地域計画の中で出てきた課題が上の3つの補助制度でちゃんと抑え込めるのかということが心配になりました。

もう一点は、水辺の整備・保全活動の参加者数で、今年は基準年度と比較して4分の1ぐらいに減っています。理由はクリーンリバーという清掃活動の、方針とか制度が変わったので人数が減っているということですが、これは制度が変わった限り、今後もこの人数が減った状態が続いてしまうのか、それとも、改めてこの制度を見直しながらこの目標達成に向けて進めていこうというような計画などがあるのか、その2つお願いしたいと思います。

【事務局】

地域計画策定事業がその上の3つの事業に繋がって、実際農地の保全に繋がっているのかにつきましては、見直しに合わせまして、どのように考えているかというところも原課に確認しながら見直しを進めていけたらと思います。

クリーンリバー大作戦は、ヒアリングしたところ、やはりコロナの時に回数を減らしたそうで、その後どうするかというところまではまだ検討できていないという話がありました。同じような対応になりますが、見直しに合わせて、参加者数という指標がこのままでいいのかというところや、その他の事業を考えているかというところも合わせて、原課と相談させていただければと思います。

【委員】

ありがとうございます。どうしても制度が変わったり、予期せぬコロナなどのようなことがあれば、目標値として設定しているもの自体が本当にそれでいいのか、というのを見直す時が必要だと思います。できないのであれば見直す、もしくはできるように新たな政策でちゃんと補っていくなど、その辺りのことを透明化していただければと思いました。

【会長】

まさにこれは、PDCAのチェックの部分をやっていますので、チェックのところですぐに直すということがあれば見直さないとはいけません。ちょうどこの見直しのためのチェックで、いろんなものが出てきていますが、原因がこれだということが分かっているのであれば、原因そのものを潰すか、もしくは原因がこれはこういうもので仕方がないということであれば、生物多様性の4.1農地面積とか毎回少なくなっていますというのばかりなので、農地面積そのものをこのまま指標にし続けていいのかという見直しをするべきだと。水辺の環境保全の参加者数なども、他の自治体も結構参加者数でいくのですけども、本当に参加者数でいいのかといったところも少し考えないといけないと思います。

継続維持になっている事業で、効果がBということであれば、今のBになっている事業のままでいいということになる。なので、新しいものを投入す

るか、見直すということで、先ほど言うてくださったように、原因を追及しているわけなので、この原因のところから、このままでいいのかっていう見直しをかけていかないといけません。

また、概要版と管理シートの落とし込みについても、次の見直しで、連動をきっちりさせるようなところも見ていくとさらに確実になっていくかなと。加えて、この環境基本計画の上位概念が総合計画ですので、総合計画との連動したツリーになっていて、落とし込みができていくかっていう点も見直しのポイントになるかなと思います。

【委員】

脱炭素社会を中心に事前にいただいた資料を見させていただきまして、まず視覚的に、事業報告は全てAだけど、進捗状況がCとあるのは違和感を覚えまして、進捗状況もABCと同じ形で表す必要があるのかなと思いました。

私の会社はエネルギー事業をしており、どうしても都市ガスなどでメタンや二酸化炭素を出してしまいますので、我々としても、水素と二酸化炭素で都市ガスの主成分であるメタンを合成するメタネーションという技術などを2030年の導入を目指しまして、2050年には100%近い形でCO₂の排出を実質0にするという形でやっておりますので、こちらの方は今後ともご協力させていただきたいと思います。

また、別件ですが、我々も環境フェアに参加させていただきました。雨を予想していたもので、ノベルティをいつもよりちょっと少なめにした結果、午前中で客足が伸びなくなってしまいましたので、我々もそういったところでもご協力したいと思いますので、来年以降もよろしくお願いいたします。

【事務局】

またぜひ環境フェアではご協力をお願いしたいと思います。

おっしゃっていただいたAがたくさんある事業の中で、進捗状況がCというところですけども、確かに連動しているように見えるので、見え方の問題も見直して検討したいと思います。また、維持を目標にしているところは、おそらく減っていくことが予想されていることが多いと思いますので、維持に対してこの評価を、達成するかどうかで判断するというのは少し難しいところもあると思いますので、その辺も合わせて検討していけたらと思います。

【委員】

4.5環境教育・環境学習についてです。寝屋川には高専がありますが、あれはこれからどうなるのでしょうか。高専の近くには寝屋川が流れていますし、広い土地なので、これから先どういう風になるのかなと気になっております。

質問ではないですが、この環境教育あるいは環境学習の中で、小学生が環境問題について学ぶということで色々見学をされていますが、できることならば、中学生、高校生、あるいは大学生でも、環境に関するゼミみたいなものがあって、それも一緒になって環境フェアなんかに参加して、発表ができたらいいなと個人的に思っています。

【副会長】

2027年に高専は中百舌鳥に移転するという形になっていますので、それまではキャンパスで授業が行われます。その後の土地活用については、切り離された問題ということで、お答えできないという状況です。

子どもたちの参加というのは、私も常々思っておりまして、まずは小学生を対象にやろうということで、環境リーダー養成講座というのを高専の学生たちが協力してやってくれています。今年度は動かしている中で、寝屋川リーダーズという寝屋川市の教育委員会とのコラボが実現できたというところもあるので、そこをきっかけにして、今後、例えば中学生であるとか、教育委員会管轄のところにも何かうまく働きかけることができれば非常にいいなと思います。

あとは、寝屋川市には摂南大学を始め大阪電気通信大学もありますので、そういった大学生とコラボしていくことができれば、環境リーダーを子どもたちに教える大学生自体もリーダーとして広まっていくことができると思います。11月に行われた環境リーダー養成講座に、実は村瀬先生に見学に来ていただきました。今後、そういった連携ができると、色々広がって良いと思います。

【委員】

この週末に、学生を連れて見学し、学生には高専の学生と協力して子供たちに教える体験もさせてもらいました。今後も何か連携していけたらよいと思っています。

【委員】

環境問題に関心のある住民さんっていうのは意外と少ないという実態を私は認識しております。私が役をさせてもらっている自治推進協議会でも、たばこの吸い殻、あるいは犬の散歩のおしっこなど、どうにかありませんかと言われていきます。たばこを吸いながら歩いている方が非常に多いのですが、これをその人に言うとなぐく怒られます。トラブルの元になる。これをなんとか地域で環境問題

に目を向けてもらえないかと思っています。こうしたら解決するということが無くて、難しいことですが。

そして、駅前清掃は美しいまちづくりで、その地域の人たちがやってくださっており、これは声を大にして広めていきたいと思っています。今後、自治推進協議会でも声を上げながら頑張っていきますので、どうかご理解よろしく願いいたします。

【会長】

意識を上げるという意味で言うと、環境基本計画の中で教育という風に書いてありますが、私たち大人に対しても教育が必要です。意識をあげるっていうようなことを色々していければと思っているところです。

【事務局】

4 駅の清掃に寝屋川市社会を明るくする運動が今参加できないということで減少傾向にありますが、広く参加いただける事業でございますので、周知も引き続きやっていけたらなという風に思います。

駅前のたばこを吸っている方とか歩行喫煙につきましては、現在保健総務課で取り締まりながら指導していく事業がございまして、そちらと連携しながら進めていけたらなと思いますし、環境学習に含めるような形で、環境基本計画の進捗についても何か関連付けるようなことができたらなという風に思っております。

犬の糞につきましても、動物関連では保健衛生課が担当しておりますので、こちらともまた連携しながら進めていけたらと思っています。

【委員】

農業関係なので言いますが、やはり担い手とか後継者がかなり不足しています。農業して儲かればいいですが、なかなかそういう状況になっていないので、子供さんなんかも継がれないという形になっていると現実的に思います。

市も補助金などを出してくれているけど、例えば機械化すると最低でも1000万近くかかってくるので、年1回使う機械に何十万もかけるというのは難しいかなと。農業者支援事業の補助金も、何十年前まではかなり出していたいていましたが、この頃は3人の農業者が一緒に1つの機械を使う場合に出すというような形です。やはり市の予算もかなり厳しいというようなことはわかるんですけれども、農業をやっている人間からすれば、なるべくもうちょっと出してほしいなというのが現実だと思いました。

【事務局】

農業をされている方が減少している傾向はあると思いますが、その保全を進めていけないかというところは、原課と相談しながら対策など考えていけたらと思います。

【委員】

市の面積における緑地の割合の目標値が17.6%ですが、どこから17.6%と算出したのでしょうか。家の近くの畑なども住宅地に代わっていますので、この緑はどうやって確保するのだらうと思います。

環境フェアが毎年6月に行われますが、梅雨の時期でお天気が悪いです。せっかくこのイベントをされるのに、どうしても6月でないといけないのか、他の月にすることはできないのかなと思います。環境に対して興味のない人にも来てもらって、興味・関心を持ってもらうということなら、ちょっとその辺も考えていただけたらなと思いますが、いかがでしょうか。

【事務局】

市域面積における緑地の割合の目標値の設定については、今持ち合わせる資料でご説明できるところがないので、確認して後日、お示しさせていただきたいと思います。

環境フェアの開催月ですけども、環境月間が6月なので、それに合わせて開催しております。ただ、おっしゃる通りで、ちょっと雨が多い梅雨の時期にもなりますので、開催月を動かすのは難しいかもしれませんが、雨でも楽しめるように開催するとか、何かしら検討できるものがあればと思っています。

【会長】

可能であれば屋根のあるところも活用されるのも一つの方法かもしれませんね。環境月間で、大体この時期に環境フェアをやるという認識が息づいているのであれば、やり方を考えるのも手だと思います。

【委員】

私が審議会委員になった当初に比べて、格段の取り組み内容の進化が見られると思います。環境の分野においても教育や育成という視点で計画が盛り込まれていることが素晴らしかったです。環境リーダー養成講座も開催していただきまして、今後は、子供の生の声で、学んだことや課題をいかに発信していくかというところにつながると大変嬉しいと思っています。先ほど、子供に教えるリーダーの育成という話も出ましたし、摂南大学さんもコラボしていただけると

もっと充実したものになると思います。大人だけでなく、町の問題というのを子供たちも捉えて、それに対するその解決策を模索、発信することを私たちがどうサポートしていけるのかをこれから考えていくべきじゃないかと思います。その子供たちがこれからの寝屋川市を作ってくれると思っているので、今後に期待したいなと思います。子供がごみ減量アプリを作って発信しているというニュースがありました。先ほども中学生、高校生の参画をとという話もありまして、養成講座も頑張っていていただいているので、ぜひこういう風なことにも、学生さんの知見を役立てていただくことができればいいと思いました。

もう一点は、農地保全についてです。管理シートに、目指すべき将来の姿を明確化する地域計画の策定と、それから地域ごとの農業を行う上での問題点を把握するという文言が盛り込まれております。農地保全は、例えば災害時の安全にも関わり、食料危機の観点からも大事です。マンションなどを建てるのもいいですが、それが少子化で空き家になっていき、空き家で困っているというデータも実際に発信されているわけですから、もうちょっと市として、農業を大事にしてほしいです。例えば、農家さんは何に困っているのか、跡継ぎ問題なのか、生活が立ち行かないからなのか、何が課題であるかを具体的に把握していただいて、それに対して市としてどういう手が打てるのか、検討していただきたい。農地を大事にしていこうと思うなら、手厚く支援していこうという予算の数字に現れてくると思うんですね。それが、寝屋川の町をこれからどのようにしていこうとしているのかという、市の姿勢だと思って見えています。

農業まつりがこの前開催されましたが、環境フェアと農業まつりを同時に開催してはどうでしょうかと、個人的に思いました。

【事務局】

農業まつりにつきましては、すごく集客効果のあるイベントだと思っておりまして、過去には農業まつりと環境フェアが同時に開催していた時期もございました。ただ、農業まつりは、出品するもののことを思うと今の時期が良く、環境フェアについても6月が環境月間という事情もありまして、別々に開催している形になっております。また、フリーマーケットにつきましては、環境問題の中でよく議論されるようになった、ごみの減量やリサイクルを訴えるということで、フリーマーケットも大事なイベントと考えております。

また、環境リーダー養成講座につきましては、今現在、鯉坂先生もご協力いただいております。やらせていただく中で特に評判がいいのが、参加者の子どもたちから見て年上のお兄さんお姉さんに教えてもらえるというところでして、これからさらにまた摂南大学さんにもご協力いただけたら、本当にすごくありがたいなと思います。また、おっしゃるように、参加して環境リーダーになった子どもたち

にこれからどういう風に活動していってもらおうのかいうところを検討していかないといけないなと考えております。

【会長】

農業まつりと環境フェアをまったく一つにしてしまうということは難しいと思いますので、農業まつりのところに環境の問題が入っていきたり、環境フェアのほうにも農業が絡んでいきたり、いい方向でコラボというような形も、また検討ください。

【事務局】

特に市街区域の中にあるような農地につきましては、おっしゃったように、そこで農作物が出来上がるという本来の機能以外にも、防災面に役立つ機能であったりとか自然環境の保護につながる役割であったり、農地には多面的な機能があるというところで、やはり農地は保全していかないといけないというのも市の方針の一つではありますので、また地域計画を策定した中で、今後できるような事業などもまた考えていかないといけないと思っております。

また、子供たちがごみ減量のアプリを作っているというお話がありましたが、寝屋川市には「もっと寝屋川」というアプリがあります。その中に、「ごみ分別・リサイクル Let's Try 4R!」というコンテンツがあり、ごみの減量のためにはどうしたら良いのかというきっかけ作りを我々も仕組んでおりますので、もしお時間があれば、じっくりと見ていただければありがたいと思います。また、不法投棄においても通報というシステムを盛り込んでおりますので、また確認していただければありがたいと思います。

【委員】

4.1の生物多様性・自然環境の、農地面積の令和12年度目標値が維持ということで、今度大谷町も大規模な農地が開発される話は伺っていますが、維持ってどういう意味で書いてあるのかなと気になりました。

フードロスに関して、私たちは小学校の時に、近くの農地に行って農作物をどのように作るのかという見学会がありましたが、今はほとんどないと思います。自分で作った作物とか野菜などはやはり大事に消費しようと思うので、幼稚園、小学生の段階で作物を作る体験、経験を積み、難しいことを考えずとも、一人一人がもっと大事に食べ物を扱うようになるんじゃないかなと考えています。

道路に路上喫煙禁止の張り紙がありますが、それが目に入る人はそもそも関心が高いから目に入るのであって、関心の低い人の目には入らない、意識に入ら

ないと思います。なので、張り紙をするのでしたら、市としても定期的にそういうエリアだよということを周知したらどうかと感じました。

あとは、直接ここと関係あるのかどうかはわかりませんが、ごみというところで、私は犬を飼っていましたが、数ヶ月前に犬が四條畷市のほうに脱走してはねられて死んでしまいました。こういう時は保健所に問い合わせたらいいだろうと思って保健所に問い合わせますと、市町村ごとに管轄が違うから、轢かれたところの市町村に問い合わせないと分からないと、更にその市は管轄がそもそも保健所ではないので、別の部署に問い合わせしてほしいと言われました。市によって管轄が違うことに加えて、いろんな市町村の縦割り行政で、なかなか犬がどこに行っているのかもわからず、気づいた時にはごみとして処理されていました。寝屋川市だけの問題ではないですが、環境省はマイクロチップ事業をしていて、少なくともペットショップで買う犬猫に関してはマイクロチップの埋め込みが義務化されています。しかし、あくまで国の事業であって、各市町村レベルまでマイクロチップの読み込みなどが徹底されていないので、マイクロチップが埋められている可能性が高いにも関わらず、轢かれたらマイクロチップの読み取りもしないでごみとして処理されるという点に疑問を持ちました。衛生的な問題で、例えば袋に入れられて、首輪の確認ができなくても、マイクロチップであれば袋の上から機械で読み取ることができると思います。今、核家族化の少子化で、犬、猫を家族同然で飼う方がすごく増えています。こういった問題をそのまま放置しておく、後々大きな問題になってくると私は感じたので、寝屋川市としても、犬や猫が轢かれた時に、マイクロチップを読み取って、せめて飼い主さんに連絡を入れる体制を整えるなど、ご配慮いただいた方がいいと感じました。

【事務局】

農地については、やはり社会の流れもあり、減っていくのを止めるのはなかなか難しいところですが、減っていく量をどこまで抑えるかというところが一番の問題になってくると思います。原課とも相談しながら、何がいいのかというところを検討していけたらなと思います。

路上喫煙などに関しては、看板を設置する効果は、絶対数を減らすという点で効果があると思っています。その他の方法としましては、この時間帯に出没しやすいなどの状況が分かるようでしたら、パトロールをするということも可能です。現に、たばこを吸われる大学生の苦情があった地域がありまして、私どもの方でもパトロールさせてもらって、一応今のところ路上喫煙もなくなったと聞いております。またそういった状況がわかるようであれば、対応させてもらえたらと思います。

動物の死骸に関しては、要請があれば回収をしております。一例を挙げると、道路や公園の鳥などです。今のところマイクロチップを読み取る機械は持っていませんが、寝屋川市は中核市のため、犬が轢かれた場合は、首輪の確認などをして保健所に照会するように取り決めをしています。他の動物については登録制度がございませんので、残念ながら住民さんから通報があれば、箱やシートに包んで養生をさせていただいています。一体一体取るということであれば、中身を確認せずそのまま回収して焼却処分をしているという事実になります。マイクロチップの読み取りにつきましては、件数が少ないとかそういう問題ではないと個人的には思っています、周辺各市の状況も十分参考の上で然るべき対応、最終的には予算措置をしていかないといけないと考えております。

【委員】

各委員さんがそれぞれの立場からおっしゃった部分と重なるところがありますが、確認のためにお聞きしたいと思います。

管理シートの4.2生活環境「工場・事業場に対する立ち入り検査件数」について、個々の実施事業の実績効果はAと評価されていますが、目標達成に対する進捗状況はCと評価されています。これはどのように判断されたのでしょうか。

もう一つは、このシートのイのところに、大気汚染防止法の関連法令に基づき有害物質を使用しているなどの一定のリスクがある工場などに立入検査を行うとありますが、これは実際、法律と寝屋川市の現状を見られて、こういうリスクがあるという風に特定されたと思うのですが、ここの具体的なリスクとは何か、教えていただきたいです。

【事務局】

事業効果がAにも関わらず、進捗状況がCという結果につきましては、先ほどの答弁と重複しますが、施策としては効果があると判断されますが、進捗状況の立入検査件数につきましては、客観的事実に基づいて、基準年より59件と下回るという結果ですので、Cという評価をせざるを得ないという結果でございます。

リスクにつきましては、大気汚染防止法などですと、水質汚濁防止法や下水道法も噛んでおりまして、その中で有害物質が使われております。具体的には、ベンゼン、水銀、煤塵など、多岐にわたる項目にはなりますが、それらの使用状況また使用量を当課で検査して判断し、そこを立入検査件数として計上しています。

【委員】

令和5年度の実施事業ということでア・イ・ウと挙げられていますが、アは、いわゆる関連法規に基づいて監視測定をし、その結果から、イにおいて必要な対策、やるべきことを抽出されて個別事業として1年間展開されています。また、生活環境ですから、ウで市民さんの声を聞いて苦情にも対応していますということで、現状の市の取り組みを維持することによって、市の生活環境が維持できると自負されているのであれば、A評価としていいと思います。

また、令和12年度の目標値の維持は、基準年度の立入件数の維持ではなく、現在の活動を維持すると考えたらいいのではないのでしょうか。令和元年度の立入件数と比較する進捗状況の評価のあり方に無理があるように思いますので、目標達成のための指標は、単年度での設定や、あるいは、2、3年での設定、そういったものでも良いかと思います。重要なのは、アに基づく環境影響評価から適宜取り組むべき施策の抽出と目標達成の為のプロセスアプローチです。抽出した施策が全て実施できれば問題はありませんが、実施する為には資源（いわゆる人・物・金）の投入が必要ですので、費用対効果も検討し実施計画を立案して下さい。但し、挙げられたこの目標は必ず達成する、それが社会と市民に対するコミットメントであるということも強く認識していただいて取り組んでいただけたらと思っております。

もう一つは、進捗状況のABC評価のあり方も改善すべきだと思います。例えば、B評価は、「目標達成のために施策及び計画の見直しが必要（改善・補強）」と評価する、C評価であれば、「目標達成のために施策・計画の変更や追加が必要（追加・転換）」など、目標との乖離がどれくらいあるのかというところを示していただき、それに対する取り組みを含めた進捗報告をしていただきたいと思います。この審議会は、この進捗報告の妥当性を審議する場と考えています。

最後に余談ですが、よくPDCAと言われますが、別にその順番通りに回す必要はありません。目標達成型の取り組みであればプランから始める、現状改善型の取り組みであればチェックから始める等、いろんな始め方があるので、その辺も検討されて、進捗管理のあり方、進め方を検討していただければ非常にありがたいと思います。

【事務局】

評価方法や指標の再設定といったところも含めてのご意見という風に理解しております。

その中で、単年度評価という方法もご指摘いただきましたので、その辺りの評価全体の見直しというところで再考すべき部分があると事務局としては考えております。

いただいたご意見踏まえまして、検討させていただきます。

【副会長】

やはりチェックの再設定的なところは必要だと強く感じています。このシートは、同じABCという記号を使っているのに、評価している内容が違うことが混乱を招いていると思います。なので、進捗状況は別の表現にして、基準値を上回っていればプラス、下回っていたらマイナスという評価をして、具体的に何が上回ったのか下回ったのかは数値を見てもらうとよいのではないのでしょうか。

進捗状況はある意味定量的な話で解決しますが、実施事業の効果については定性的に判断される内容で、この段階ではそういう風に判断せざるを得ないということであれば、A、B、C、Dという表現でいいと思います。

また、この進捗状況で、【令和5年度時点】と書いてあるところの命名も、例えば「進捗状況と事業効果から見た相互評価」などの言葉にして、例えば事業効果がA、A、Bという評価になった場合、Aが多いので進捗状況もA評価とする、B、B、BならB評価とか、そういう風にするとして、相互評価のところは、例えば事業効果はA、A、Bで、進捗状況としてはA評価になるけども、基準年度を下回っていたらマイナスだからAマイナスとする。そういう形でやっていくと、事業効果としてはかなりいい取り組みをここではしているけども、数値目標は下回っているから、そこを頑張って取り組んでいく必要があるとわかりやすくなるのではないのでしょうか。

さらに、それを踏まえてどうするかというところが重要なので、一番下の課題と今後の予定っていうところの見出しも変えて「総合評価を踏まえた課題と今後の予定」としてもらって、どうして下回っているのか、それを挽回するために今後の予定をこうしますという内容を書いていただくと、見る人は混乱しづらいと思うので、その辺りをご検討いただければと思います。

【事務局】

おっしゃっていただいた、進捗状況をプラスマイナスで表記するという考え方が、定量的ですごくわかりやすいと思いました。また、総合評価を付け加える点や、課題の書き方、その辺が確かに薄いという印象もありますので、この見直しに合わせて、様式を変えるかどうかについても検討していけたらと思います。

3. 次第2 マナーアップ大作戦について

(事務局より説明)

【委員】

4つのマナーと書かれていますが、犬の散歩のマナーとかもあるとうれしいです。防犯・安全マナーは、具体的にどんなことでしょうか。

【事務局】

ミッション4に書いてあります通り、夏休み、冬休みに、子供たちは早くお家に帰りましょうというところを周知していくことになっています。

【会長】

マナーアップ大作戦として今回この4つを取り上げていらっしゃるんですけど、また、次回やる時に犬の散歩のマナーなどの項目をご検討いただければと思います。

3. 次第3 次回環境保全審議会の予定について

(事務局より説明)

4. おわり

(事務局よりあいさつ)

以上